

平成 29 年度「ともに学びつながる図書館・実践編 2」報告書

目的 先進事例を視察に行き、岸和田市における課題（固定化、形骸化、高齢化）を共有し、課題解決に向けた方策を多様な関係者と一緒に考えながら、図書館の果たすべき役割について考える。

テーマ「伊丹市立図書館へ視察に行こう！」

「図書館において、学びや遊びに関する創造的な活動を市民と共に実践している」点が先進的な取り組みをしている図書館として評価されている伊丹市立図書館ことば蔵。市民が自由に参加し、やりたいことや運営について話し合える「交流フロア運営会議」について話を伺う。



日 時 28年7月27日（木） 参加人数 24名（市民・行政関係者）

（報告）図書館以外にも公民館、ボランティアセンター、女性センター、和歌山大学岸和田サテライトなど、多方面で活動されている方も参加しての視察でした。共通してあがっていた感想は、「やっぱり横のつながりが大切」「岸和田でも既にやっていることが多い」ということでした。自分たちのまちをどうするか、行政と市民と一緒に考え信頼関係を築く事の大切さを学びました。

テーマ「伊丹市立図書館ことば蔵館長に聞いてみよう！やってみよう！」

伊丹の交流フロア運営会議は、「一定の制約は決めてあとは走りながら考えていこう」と市民も職員も一緒に考えていく中で始まる。そこから続々と市民企画が生まれ、職員企画が生まれ、人が人を呼ぶ仕組が確立されていったという。講師の話の後、参加者で「わが町の図書館をどのようにしたいか」をテーマにワークショップをし、意見を出し合いました。



日 時 29年10月22日（日） 講 師 綾野 昌則氏（伊丹市立図書館ことば蔵館長）

参加人数 22名（市民・行政関係者）

（報告）視察に続いて、ことば蔵館長を招いての講演会・ワークショップを市民、行政職員、関連施設職員、図書館職員が共有することにより、確実にそれぞれに「何かを一緒にしよう！」という意識が芽生えました。

テーマ「まちライブラリー勉強会（2回開催）」

市民や行政関係者と一緒に学び実践していく中で、「まちライブラリー」というキーワードが生まれる。全国に540カ所ある「まちライブラリー」の提唱者をお招きして、本をきっかけに人と人の交流拠点をつくるしくみを伺い、コミュニティ再生やまちの起爆剤にどうつながったかを学ぶ。

2. 日 時 29年11月10日（金）・30年3月18日（日）

3. 講 師 磯井 純充氏（森記念財団普及啓発部長）

4. 参加人数 30名（市民・行政関係者）



（報告）まちライブラリーのあり方に答えはなく、実践していくことで、岸和田に合った「まちライブラリー」のあり方を考えていくため、まずは平成30年5月に開催される「まちライブラリーブックフェスタ in 関西 2018」に参加してみて考えていこうという仲間が増えてきました。